

「昔と今の平和教育者」 質問と意見

今日の題材について、質問やご意見をお書きください。

○平和(戦争)に対する思いは、被害を受けた自治体によって異なる

Q. 学校で平和教育実践者を増やすために、はじめに動き出すのは、どなたでしょうか? 校長先生の関心が高いと、広まりやすい??

A1:最初に動き出すのは平和教育に関心を持つ教員です。学校での取り組み方法として、以下の点が挙げられます:①教科や道徳の学習としての平和学習、②社会科の学習としての平和学習、③行事や特別活動における平和学習例えば、広島や長崎への修学旅行や平和資料館の訪問、平和文化祭などがあります。④総合的な学習の時間での平和学習:総合的な学習の時間を活用して、調査や発表、意見交換などを通じて平和について学ぶ機会を提供します。

A2:校長先生の関心が高く、協力的だといと広まりやすいです。平和教育は、教師が行おうと意図することで始まります。そして平和教育は、学校あるいは学年、学級で自由裁量できる範囲内での活動になります。その範囲がどれぐらい広がるか、言い換えれば平和教育がどれだけ実施しやすくなるかは、学校管理職など職場の周りの人たちとの関係に左右されます。管理職が平和教育に好意的な人であり、教員の自主性を尊重する人であれば、平和教育は実施しやすくなります。そうではない場合でも、なぜ平和教育が必要か、どんな教育的効果が期待できるかの説明をしっかりとすることで、支援を得ることができます(注1)。

○ありがとうございます。中学校で国語を教えています。スタートは家の遺影や墓といった、幼少期からです。今、教育内容が多様化していますが、一番肝心なのはやっぱり人権教育だと思います。その中にちゃんと平和について過去から学ぶことが大切だと思い、勉強しています。

○どうか、いろんなものに混ぜ込んでやっているというのが現状です。

○数は少ないかもしれませんが、若い先生方の方の平和教育への関心の方が、実際の社会の危機を背景にしていて、より主体的であるような印象を持っています。

○歴史認識と英語力の不足だと思います。

Q. 先ほどのインタビューの回答で「平和とは何かを考えさせることが重要」とありましたが、「平和教育」をもうちょっと広げて他人とのコミュニケーション術や紛争予防、紛争解決について教育現場で教える事が重要ではないでしょうか。

A: 平和教育に何を含まかは研究上でも課題となっています。日本の従来の平和教育（狭義）は、戦争について教える平和教育であり、平和問題を題材として教える教育に該当します。広義の「平和についての教育」では、人権や国際理解を含んでおり、海外では紛争解決や非暴力的変革教育を含ことが多いです。日本では道徳で平和について教えることが多くなっていますので、他者の気持ちがわかるとか、戦争被害者の心に共感できるなどが、教育現場でも大切な学習課題となっています。

○大学で中国や韓国の留学生と議論ができない学生が多かったようです。

○学校でも公立の平和資料館でも日本の戦争被害に重点が置かれています。これは問題だと思います。

注1：「6）学校管理職など周りの支援を得る」のHP

<https://kyoiku.kyokyo-u.ac.jp/gakka/murakami/2016PE/pr3.html>